

# 他国と対話の努力を

## 草の根の交流が大切

### 県民の声

トランプ米大統領が米国の国益を最優先する方針を鮮明にした就任演説に対し、県内で日米交流を続ける関係者からは懸念する声

が聞かれた。今後も日米の絆を深める草の根交流の重要性を説く意見もあった。

県原爆被爆者の会の宇田茂樹会長(70)は「不破郡垂井町宮代」は「自分の国さえ良ければいい」という考えではなく、他国との協調や対話の努力をしてもらいたい」と注文。2001年の米同時多発テロ以降、追悼公演を続けている和太鼓奏者加藤拓三さん(35)は「恵那

市大井町」も「就任演説はこれまでの暴言を並べたもので、しっかりと見極めていくことが大切」と懸念を示した。

一方、飛騨市古川町の酒造店で蔵人を務める米国人ダリル・コディーさん(44)は「高山市江名子町」は「自由を愛し、米国民を幸福にしようという姿勢がよく表れていた」と評価。日本在住約30年の米国人牧師フィリップ・メルトンさん(55)は「関市安桜台」は「外交については、正論も語っているが、誤解や不安を招く発言も多かった」と述べた。

今後の日米関係について、宇田会長は「核廃絶への大きな流れは変わらない

と思うので、訴えは続けていきたい」、加藤さんは「太

### 基地の街「どうなる」

トランプ政権の誕生で日米同盟の行方に注目が集まる。新大統領はこれまで、米軍撤退の可能性にも言及してきただけに「何をするか分からない」。基地を抱える街では不安や警戒の声

が上がる一方、負担が集中する沖繩県では期待する人もいた。

鼓の演奏を通じて、両国間の問題解決に微力であっても役立ちたい」と前向きに語った。県日米協会の小川信也会長(69)は「課題も多いが、草の根の日米交流が果たす役割は大きい。これまで以上に日米の絆が強固になることを祈っている」とコメントした。

が「一、軍事的な緊張が高まれば住民の負担も増える」と危機感を示した。岩国商工会議所の長野寿会頭(80)は「まさに未知との遭遇だ」と話した。

日米両政府が進める米軍普天間飛行場(沖繩県宜野湾市)の名護市辺野古移設に反対する翁長雄志県知事の支援者は「何をするか分からない部分には、期待もある」と語る。翁長氏は、31日から米首都ワシントンを訪問予定。この支援者は「基地問題の解決のきっかけを

つくることができれば」と述べた。沖繩戦を体験した那覇市の野里千恵子さん(80)は、就任演説を聞き「米国第一」ばかりを唱え、国際平和に向けたメッセージはない。戦争が起きれば沖繩はまた危険にさらされる」と不安を覚えたという。青森県三沢市は基地関連交付金が予算の3割を占める。米軍関係者が多く訪れる飲食店を営む佐藤一雄さん(60)は「これまで通りの基地運営を期待したい」と不安げな様子だった。

# トランプ流を警告